



## 最近思うこと

理論研究系分子基礎理論第二研究部門 中村宏樹

まとまったアイデアや構想がないまま、ここに何かを書かなくてはいけない羽目になってしまった。取り留めのない無責任なことを書くことになりそうである。世の中に対する危機感と愚痴の表明（勿論、自分自身の反省をも込めて）になってしまうであろうことを最初にお詫びしておきたい。と言うのも、最近、例の大学共同利用機関の法人化問題で振り回されているからである。この改革によって素晴らしい体制と組織が出来そうと言うことであれば良いが、どうもそういう明るい光が見えてこない現実の中で、それでもこれを進めて行かねばならず、しかもそれに荷担しなくてはならないのは誠に心外であり健康に良くない。誰かが、「山本五十六の心境です」と冷やかしてくれたが、残念ながら「言い得て妙」である。多大な時間と労力を費やしているが、日本の基礎学術は100年の計で本当に大丈夫なのだろうかと心底心配になる。国に資金が十分でない時の良くない改革は最悪である。運営上本当に良い意味での自由度が増すのであれば悪いことばかりではないであろうが（実際、少しでもそうなることを期待している訳であるが）、非公務員化に伴う諸問題、企業会計の導入、予算のない中での組織の拡大、会計を単年度にしなくても良いと言う甘い言葉が実は大嘘であったこと、などなど問題が山積みである。中でも、小生が最も心配しているのは、応用研究への思考と圧力が強まるのではないかと言うことである。世の中の風潮として、一般社会に受け入れられ易い応用研究や金儲けに繋がりと見られる研究、或いは、実際にお金を儲ける研究が重視されかねない。基礎学術を守るために、責任ある大きな大学が

声を大にして異を唱えてくれれば良いのだが……。些か既に遅きに失する嫌いはあるが、それでも黙っているよりは遥かにましな筈である。よく、日本の組織改革は「着せ替え人形だ」と言われる。体裁だけが違って、中身が変わらないのである。今回は、「着せ替えで中身が腐らない様に気を付けなくてはならない」と言う皮肉な状況にあるのではないだろうか!! 少しでも良い方向に向かう様に（多大な！）努力をしなくてはならない。

何はともあれ、基礎科学、基礎学術の意義とその重要性について我々自身が改めて深く考え直さなくてはならない。社会に対する責任を自覚すると共に、意義と重要性を強く訴えていく努力をする必要がある。「基礎科学は子供の様なものだから大事にしなくてはいけない」という表現がある。「将来有用な大人に育って行く者がいるからである」と言うこともあるが、むしろ、「子供それ自身に存在意義がある」からなのである。基礎科学、基礎学術もそれ自身に存在意義があるのである。ただ、我々が殻に閉じこもって奢っているだけでは許されない。説明責任は果たさなくてはならない。しかし、何と云っても、最大の問題は、科学者自身が気概を失い、プラグマティズムと応用研究重視の風潮に流されているのではないかと危惧されることである。

先日、御殿場にある前島秀章美術館を訪れる機会があった。木彫り彫刻家の前島秀章の「時空を超えた木彫りの芸術作品」展である。実にほのぼのとした作品が並んでいた。彫刻作品と並んで、彼の文章が額に収められて飾られていた。その中に、「芸術とは、ギスギス、ガタガタした社会をなごませ、人

の心をほのぼのとさせる役割を担ったものであると  
思っている」と、そして「彫刻で哲学をしたい」と  
言う文章があった。実に素晴らしい表現である。  
「学術(学問と芸術)」にはやはりその様な重要な役  
割がある筈である。

最近の世の中を見ていると、つくづく、「哲学の  
欠如」を感じる。プラグマティズムが蔓延している。  
何事においても、本質を見極める努力をし、もっと  
「深く物事を考える」努力をする必要があるのでは  
ないだろうか。当たり前のことであるが、これは、  
学術研究においても言えることである。技術の進歩  
によって研究手段や発表方法などが格段に便利にな  
っており、表面的にはきらびやかさを増しているが、  
中身が本当に素晴らしいものになっているであろう  
か。大掛かりな数値計算をして得られた結果が「当  
たり前じゃないの!」と思われる事が間々ある。ま  
た、美しいパワーポイントの画面に感心しても、  
「中身はどうも……」と思われる事がある。計算機  
を駆使する特技などはそれ自身素晴らしいことでは  
あるが、目的と手段を混同しない事が肝要である。  
厳しく自問自答しなくてはならない。この様なこと  
は、特に、若い世代に正しく伝達されなくてはいい  
ない。「優れた研究とはどういうものなのか」と言  
うことを。それには、哲学と信念を持って苦しみな  
がら深く考える必要があるのだと言うことを。また、  
「本邦初公開」的な研究はやめましょう。「欧米で上  
手く行っているからやる」と言ったことを時々耳に  
するが、こういうことでは何時まで経っても真に独  
創性のある研究は出来ないでしょう。

分子研には優れた人材が集まっており、基礎学術

に対する底力があります。上述した様な厳しい(間  
違った)世の中の風潮に流されることなく、情熱と  
気概を持って基礎学術のあるべき姿を實力で示して  
行く努力を一人一人の研究者が積み上げていかれる  
事を祈っています。これは、あと3年弱で退職する  
者のいわば遺言です。

合掌